

イヴ・ネッツハマー

プレスリリース

ささめく葉は空気の言問い

2024年
3月10日(日) -
5月12日(日)



YVES NETZHAMMER
Blätter sind Fragen der Luft

宇都宮美術館



■ 開催概要 ■

スイス現代美術を代表する映像インスタレーション作家、イヴ・ネッツハマー(1970-)による、日本で最初の個展です。

デジタル・アニメーションの虚空間と奇妙なオブジェを掛け合わせ、土地の記憶の深層に潜行して起源の謎を照らし出すネッツハマーが、大谷採石場という巨大な地下空洞を宿す街、宇都宮と出会います。

会 期	2024年3月10日(日) - 5月12日(日)	※本展は他会場には巡回しません。
休 館 日	月曜日(4/29、5/6 は開館)、4/30、5/7	
開館時間	9:30-17:00(入館は 16:30 まで)	
観 覧 料	一般 1,000 円(800 円)、高校生・大学生 800 円(640 円)、小学生・中学生 600 円(480 円) () 内は 20 人以上の団体料金	
	◎身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保険福祉手帳の交付を受けている方とその介護者(1名)は無料。	
	◎宇都宮市在学または在住の高校生以下は無料。宮っ子の誓いカードまたは学生証をご提示ください。	
	◎毎月第3日曜日(3月17日、4月21日)は「家庭の日」です。高校生以下の方を含むご家族が来館された場合、企画展観覧料が一般・大学生は半額、高校生以下は無料となります。	
	◎4月2日(火)は「市民の日」振替日は、宇都宮市民の方は観覧無料。ご来館の際は住所が確認できる身分証明書をご提示ください。	
主 催	宇都宮美術館、下野新聞社	
後 援	在日スイス大使館	
助 成	スイス・プロ・ヘルベティア文化財団	


■ 展覧会についてのお問い合わせ ■ 宇都宮美術館 TEL : 028-643-0100



■ 展覧会の趣旨 ■

謎めいてときに痛ましく、けれどもあくまでエレガントな線と形で紡がれる心象世界。

スイス現代美術の「今」を体現する作家イヴ・ネッツハマー(1970-)は、通常の語りの論理を超えて展開するデジタル・アニメーションの映像に、自動機械など風変わりなオブジェを掛け合わせ、世界の起源や自己の根拠をめぐる問いが忘却の淵に押しやられながらもなお明滅する領域を、繊細に描き出してきました。日本で初めての個展となる今回の展示では、これまでの代表的な映像作品を紹介するとともに、宇都宮で現地制作する大規模な新作インスタレーションを披露します。



■ みどころ ■

① 代表的な映像作品を上映

コンピューター・アニメーションによる無言劇の映像は、通常の語りの理路ではなく、イメージがイメージを呼ぶ原理に即して進行し、見る者を予測不可能な展開に引き込みます。

② 宇都宮の地下空洞に触発された竹のインスタレーション

宇都宮の大谷採石場には、神殿を思わせる魅惑的な地下空洞が広がっています。その光景に着想を得たネッツハマーは今回、竹を用いた大規模なインスタレーションを美術館で現地制作します。

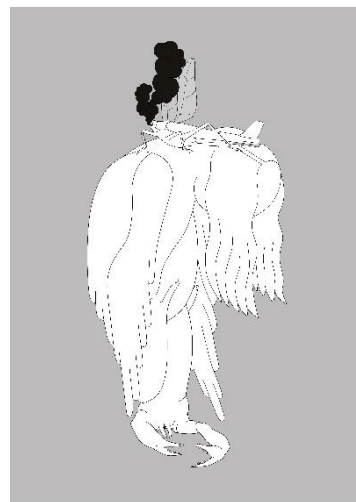
③ 美術館建築とのスリリングな競演

作品が設置される土地や建築の記憶を肌で読み解くネッツハマー。今回の展示で彼は、周囲の森の情景を建物内に効果的に取り込む宇都宮美術館の空間と、作品で対話を交わします。

■ 展覧会に分け入るための 3 つのキーワード ■

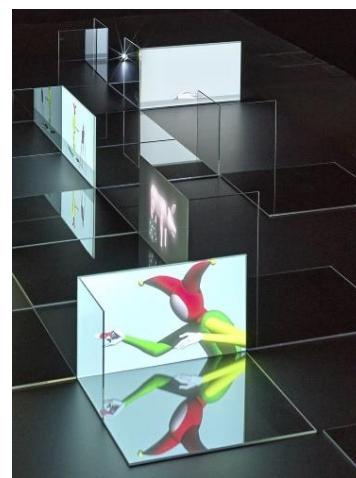
[線]

ネッツハマーの表現の起点は、コンピューターによるデジタル・ドローイングの純化された線にあります。ドローイングの航跡
それ自体はエレガントなまでに明晰でありつつ、描かれたイメージには、世界に対する違和の痛みを感じさせるような奇妙さが漂います。線は、ロープや針金などを用いてさらに現実の三次元空間へと展開されます。



[人像]

ネッツハマーのデジタル・アニメーションには、顔をもたず、性別もさだかでない抽象的な人像が繰り返し登場します。映像の中で、それらは有無を言わさぬ状況の展開に巻き込まれ、ときには血を流し、煩悶し、危ういコミュニケーションに身を投じます。〈人像〉は、無防備な傷つきやすさと同時に、変容へと開かれた可塑性を感じさせる存在だと言えるでしょう。

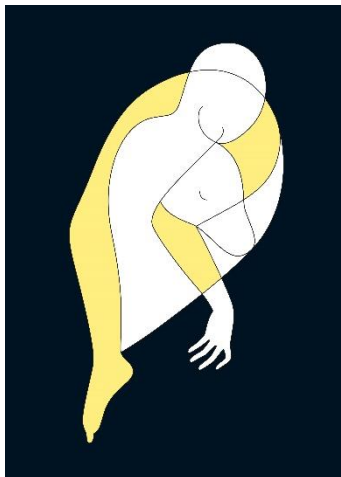


[潜る]

設置される場や建物の深層記憶に感応するネッツハマーの作品には、地下や水中へと潜る〈人像〉がたびたび現れます。宇都宮の大谷採石場跡、さらに近隣の足尾銅山跡の地下空間を訪れ触発されたネッツハマーが、われわれの深層に広がる空洞にどのように潜り、なにを照らし出すのか、ご期待ください。



■ イヴ・ネッツハマーについて ■



1970 年、シャフハウゼン生まれ。建築製図やデザインを学んだのち 1997 年より作家活動を開始したイヴ・ネッツハマーは、ピピロッティ・リスト (1962-) の次の世代を担う映像インスタレーション作家として注目を集め、2007 年のヴェネツィア・ビエンナーレではスイス館代表をつとめました。これまで、サンフランシスコ近代美術館 (2008 年)、ベルン美術館 (2010-11 年) など各地で個展を開催。大学や病院など、公共建築と一体化したプロジェクトでも現代的な感性と機知にあふれた作品を手がけています。

2024 年、長編デジタル・アニメーション映画「旅する影」公開予定。

www.netzhammer.com

■ 関連イベント ■

当館ホームページ u-moa.jp にてお知らせいたします。

■ 図版掲載をご希望の方へ ■

下記より、ご希望の画像をダウンロードいただけます。

<https://www.artpr.jp/u-moa/netzhammer>

- ◎ 画像はトリミングおよび文字乗せをせずご使用ください。
- ◎ 発行前に PDF にて記事のレイアウト校正を下記担当へお送りください。
- ◎ 発行後、紙媒体については掲載物(または表紙と掲載頁の PDF)のご送付を、ウェブ媒体については公開 URL のご通知をお願いいたします。

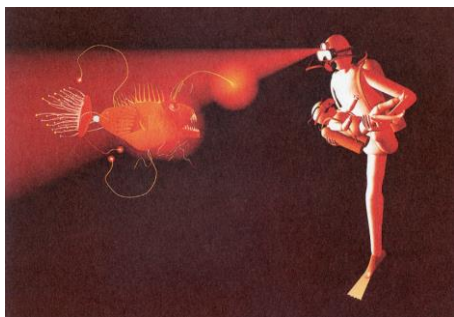
■ 本件ご取材についてのお問い合わせ ■

宇都宮美術館 TEL : 028-643-6845

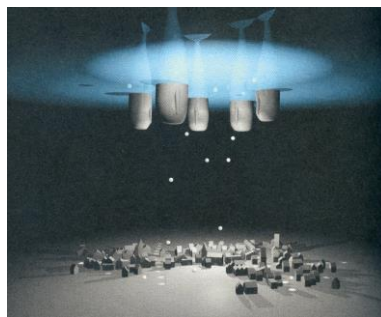
担当 : 石川 ishikawa@u-moa.jp / 石井 ishii@u-moa.jp / 小堀 kobori@u-moa.jp

■ ご提供画像一覧 ■

◎ 画像の掲載にあたっては、以下に記載するキャプションとクレジットをご明記ください。



①



②



③



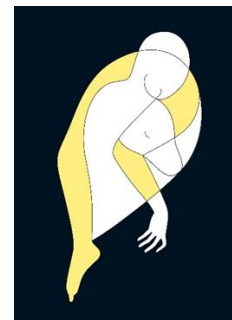
④



⑤



⑥



⑦

① イヴ・ネッツハマー《身体の外縁》2012年
ギャラリー・ピアンコーニ(ミラノ)での展示映像より

③ イヴ・ネッツハマー《現代はスープの表面に映った
自分の口を探す》2014年
リートベルク美術館(チューリヒ)での展示風景

⑤ イヴ・ネッツハマー《伝記で舌を滑らせる》2019/
2022年
ハウス・コンストルクティーフ(チューリヒ)での展示風景

⑦ イヴ・ネッツハマー《「ささめく葉は空気の言問」展
コンセプト・デジタル・ドローイング》2023年

② イヴ・ネッツハマー《反復するものが主体化する(プロ
ジェクト A)》2007年
ヴェネツィア・ビエンナーレ、スイス館での展示映像より

④ イヴ・ネッツハマー《デジタル・ドローイング(黙示録
シリーズより)》2023年

⑥ イヴ・ネッツハマー《身体の外縁》2012年
ギャラリー・ピアンコーニ(ミラノ)での展示映像より

いずれも ©Yves Netzhammer